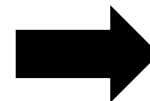


僕は発達凸凹でも、
前向きに生きていく。

山田 隆一

公式サイトはこちら



概要

- ・自閉スペクトラム症(ASD)や発達性協調運動症(DCD)の当事者である演者は、得意なこと(凸)と苦手なこと(凹)が激しい→発達凸凹
- ・そんな極端な凸凹を抱える演者自身の体験や考えをもとに、社会には演者のように生きづらさを抱える人々がいることを広く知っていただくための一意見を提供する
- ・演者は自身の特性のために大いに悩み、精神的に体調を崩してしまった時期がある
→それをどう乗り越え、自身の特性と向き合い前向きに生きていくようになったかを述べる

演者紹介①

山田 隆一(やまだ りゅういち)

- ・1993年、長崎県南松浦郡新上五島町生まれ、現在は長崎市に在住
- ・幼い頃から学校に馴染めず、小学5年生の頃に自閉スペクトラム症(ASD)の診断を受ける
- ・その後不登校や保健室登校、通信制高校への転入を経て、浪人生活で孤独感を感じ一念発起
- ・2013年、長崎大学経済学部に入學。しかし「人と仲良くなること」の難しさ(凹)を痛感。
- ・大学在学中には、イタリア・ヴェネツィアへの交換留学も経験。世界の多様な人々を肌で感じる

演者紹介②

山田 隆一(やまだ りゅういち)

- ・帰国後、大学から講演依頼があり、自身のASD当事者としての体験を講演(凸)
- ・大学卒業後の2019年には初の著書『僕は発達凸凹の大学生』(星和書店)を出版(凸)
- ・2020年には自身の特性によりできる仕事に限られることに思い悩んだことが主な理由となり、精神的に体調を崩したものの、自分なりに乗り越えることができた
- ・現在は自分の特性による生きづらさがありながらも、前向きに生きながら講演活動や執筆活動を続けている

← (主な活動実績はこちら)



山田隆一

公式サイト

 [ブログはこちら](#)

 [ご連絡はこちら](#)

こちらからアクセスできます→



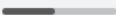

自己紹介

ご挨拶

日本語音声

▶ 0:00 / 0:14   

英語音声

▶ 0:00 / 0:11   

声についてのブログは、[こちら](#)をご覧ください。



こちらからアクセスできます→





講演活動

ASD当事者としての自らの体験を講演する活動をしています。保護者・教育関係者・医療従事者・学生の皆さまなどが主な対象です。

長崎県内の学校や事業所、自治体を中心に、[10回以上の講演経験](#)があります。テレビや新聞の取材もいただき、注目の高い分野だと感じております。

長崎県内だけでなく、全国の皆さまからのご依頼を承ります。講演実績は[こちら](#)をご覧ください。



執筆活動

講演活動と同じく、ASD当事者としての体験を執筆する活動もしております。これまでに著書を1冊出版したほか、[雑誌寄稿の経験](#)もあります。

他にも、語学のことや、現在取り組んでいるプログラミングなど、様々なジャンルに対応いたします。英語の翻訳もお気軽にご連絡ください。

紙媒体の書籍や雑誌、インターネット上の記事など、皆さまのご依頼を幅広く承ります。文章サンプルとして、[こちらのブログ](#)をご覧ください。



Web制作

皆さまのWebサイト・ホームページの制作を承ります。HTMLやCSS、JavaScript、PHPなどの言語を用いて制作いたします。パソコン用だけでなく、レスポンシブ対応(スマートフォン用ウェブサイト)も承ります。

デザインにつきましては、お客さまにご提示いただく方式、私からご提案する方式の両方に対応いたします。ご相談ください。

細かい修正などにも、柔軟に対応いたします。よろしくお願いいたします。



アプリ開発

現在は、Flutterというフレームワークを用いてAndroidとiPhoneの両方に対応するスマートフォンアプリを開発しております。

今取り掛かっているのは、発達特性を検査するアプリです。完成しだい、Google PlayストアやApp Storeに公開いたしますので、リンクをこのサイトにも載せます。



こちらからアクセスできます→





写真

私は、写真を撮影することが好きです。[こちらの「写真」カテゴリのブログ記事](#)で、私が撮影した様々な写真をご紹介します。

私に何かを撮影してほしい、という方がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽に[こちら](#)からご連絡ください！



語学

私は語学にも関心があります。[こちらのホームページ英語版](#)も自ら作成いたしました。

また、[英語での朗読やナレーションもできます](#)。お気軽にご相談ください。

英語や、留学先だったイタリア語、そして現在は、ドラマなどの影響で韓国語の学習にも取り組んでいます。その他のさまざまな外国語にも関心があります。



会計

大学の簿記の授業を受けてから、会計にも関心を持ちました。

NPO法人での約1年半の経理の実務経験や、日商簿記2級の資格があります。



教育

私は、教育にも関心があります。自身の不登校経験から、同じように悩んでいる子どもたちのためにできることはないかを考えています。

そのような子どもたちを中心に、塾や家庭教師などで学びの場を提供できれば幸いです。

2020年4月から小学校でプログラミング教育が必修化となりました。私も、子どもたちと一緒に学んでいければと思います。



ウクレレ



ギター



こちらからアクセスできます→



ご連絡

本サイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

山田隆一に関するご質問や、お仕事のご依頼などは、こちらからご連絡ください。

本やブログをお読みいただいた上での感想などもご自由にお送りください。

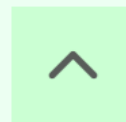
オンラインによる講演や打ち合わせなども承ります。お気軽にお尋ねください。

24時間いつでも、日本中・世界中どこからでも、一言からでもなんでもお気軽にご連絡くださいませ！

ご連絡の目的

- 講演のご依頼
- 執筆のご依頼
- デザイン・制作のご依頼
- その他お仕事のご依頼
- ご意見・ご感想
- その他（コメント・ご質問などなんでもご自由にお送りください！）

お名前(必須)



こちらからアクセスできます→



ブログ

ご挨拶（音声）

▶ 0:00 / 0:19 ———▶ 🔊 ⋮

ご覧いただきありがとうございます。こちらでは、山田隆一がその時感じたことなどを自由に書いていきます。お読みいただき、ピンと来たところやご質問、記事のリクエストなどがございましたら、お気軽に[こちら](#)からご連絡くださいませ。

全記事一覧

カテゴリ別の記事をご覧になりたい方は、[こちらのカテゴリ記事一覧](#)をご覧ください。

こちらからアクセスできます→



ブログ【「僕は発達凸凹でも、前向きに生きていく。」カテゴリ リ】

ご挨拶（音声）

▶ 0:00 / 0:26 ———— 🔊 ⋮

こちらでは、私のASDやDCDの特性などについて述べた「僕は発達凸凹でも、前向きに生きていく。」カテゴリの記事をまとめています。お読みいただき、ピンと来たところやご質問、記事のリクエストなどがございましたら、お気軽に[こちら](#)からご連絡くださいませ。

記事一覧

746. 「多様性」とは、「いろいろな人がいる」と気づいて異なる考えを尊重すること。【僕は発達凸凹でも、前向きに生きていく。第68回】(2024/04/27).

こちらからアクセスできます→



...



今回の限定開放でここを訪れた人々は、私のように思い出がある人々も少なくないことでしょう。

...

こちらからアクセスできます→



僕は

発達^{でこ}凸凹^{ぼこ}の大学生

—「発達障害」を超えて—

山田隆一 著
今村明 協力

詳細はこちら
(星和書店HP)



「発達障害」をもつ僕の
人生の凸凹道は……冒険だ！

発達の凸(強み、得意)と凹(困難さ、苦手)の差が大きい「発達凸凹」。
自分の凸と凹を知れば、怖くない！ 発達障害のうち、自閉スペクトラム症の診断を受けた一人の少年が、自身の凸と凹を見つけながら成長していく自伝的小説。

巻末資料として主治医による検査結果の解説付き。

神経発達症 (発達障害)

生まれつきの特徴で、主に、以下の分類がある
↳(「障害」や「病気」ではないと演者は考える)

①自閉スペクトラム症(ASD)

②注意欠如・多動症(ADHD)

③限局性学習症(SLD、LD)

④発達性協調運動症(DCD)

演者は、この中の①ASDと④DCDに当てはまる

神経発達症 (発達障害)

生まれつきの特徴で、主に、以下の分類がある
↳(「障害」や「病気」ではないと演者は考える)

①自閉スペクトラム症(ASD)

②注意欠如・多動症(ADHD)

③限局性学習症(SLD、LD)

④発達性協調運動症(DCD)

演者は、この中の①ASDと④DCDに当てはまる

神経発達症

生まれつきの特徴で、主に、以下の分類がある
↳(「障害」や「病気」ではないと演者は考える)

①自閉スペクトラム症(ASD)

②注意欠如・多動症(ADHD)

③限局性学習症(SLD、LD)

④発達性協調運動症(DCD)

演者は、この中の①ASDと④DCDに当てはまる

「発達障害」という言葉について

- ・演者は「発達障害」という言葉に**強い不快感**を感じる
→「障害」という言葉からは、ネガティブなことしか読み取れずポジティブなことが蔑ろにされている
(もちろんいろいろな考え方があるので、「発達障害」という言葉が好きな人もいることは尊重する)

- ・「神経発達症」という言葉であれば「症」という言葉には「病気」という意味の他にも
たとえば「潔癖症」など、その人の「特性」を示す意味が読み取れるのでこちらのほうがまだ良い

- ・私は個人的に得意なこと(凸)と苦手なこと(凹)の両面を兼ね備えている意味合いの
「凸凹」という言葉を今のところは好む
→将来的に「発達障害」に代わる、ポジティブな面も含めたより良い名称が広まることを願う

自閉スペクトラム症(ASD)

主に、以下の3つの特徴が見られる

①コミュニケーション能力の問題

②強い「こだわり」

③想像力の欠如

同じASDの診断名でも特性の表れ方は人それぞれ異なり、十人十色
→この診断名だから、こういう特徴 などと単純ではない

①「コミュニケーション能力」の例

- ・他人のペースに合わせることが極端に苦手(凹)
→学校の班行動や、体育の集団行動で困難があった

- ・多くの人々が自然に習得できる、人との関わり方がわからないことがある(凹)
→自然に習得できないため、自分なりに学ぶ必要がある

- ・ただし、コミュニケーション能力に困難があるものの、
人と関わることを避けているわけでは決してなく、
様々な人と関わりたい気持ち強く持つ

②「こだわり」の例

・「発達障害」ではなく、「発達凸凹」もしくは「（神経）発達症」

→特性を活かせば良い結果をもたらすのだから、「障害」？

・上記のように、人々が気にしないような細かいところまで気にする傾向がある

→この特徴は、気が付きやすい良い面(凸)と考えすぎることの悪い面(凹)を持ち合わせている

・好奇心旺盛であり、気になったことにこだわり、

納得のいくまで情報収集をすることがある

→幼少期から、「あれ、なあに」、と親によく尋ねていた

③「想像力の欠如」の例

- ・抽象的で曖昧な言葉だと、どうすれば良いかがわからないことがある(凹)
→具体的に指示されると、わかりやすい
- ・力加減がわからず、物を壊してしまうことや、
どの程度声を出せば良いかわからず、夜に大きめの声で話してしまうことがある(凹)
- ・どの程度の長さ話をすれば良いかが想像できず、
話しすぎる傾向にあるのを避けて、無口になりがち
→普段は口数が少ない

ちなみに、「想像力の欠如」は診断における言葉であり、
演者自身が一般的な「想像力のない」人物であるとは限らない

発達性協調運動症(DCD)

- ・運動が苦手なことがあり、不器用な特性がみられる(凹)
- ・演者も、主に体育の授業にて困難がみられた (例：長縄跳び大会)
→周りが自然と身に付けることができる動きがいつまで経ってもできないことがある(凹)
- ・しかし、歩くことや楽器の演奏、パソコンやスマホの操作など好きに取り組むことができる運動もある(凸)
→どう操作すれば良いかが規則が決まっているものを動かすことは得意(凸)、動きが不規則なものを動かすのは不得意(凹)な傾向
(だからスマホは得意でも、セルフレジは苦手)

診断名と、背が高いこと

・ご覧のように、演者は背が高い

→一般的に背が高い人は、「スポーツが得意」だと思われる傾向にある

・しかし、演者は体育の授業ではほとんどがビリになるほど、スポーツが大の苦手(凹)である

→背が高いからといって、スポーツが得意だとは限らない

・診断名も同様で、ASD当事者は一般的に「興味の幅が狭い」というイメージがある

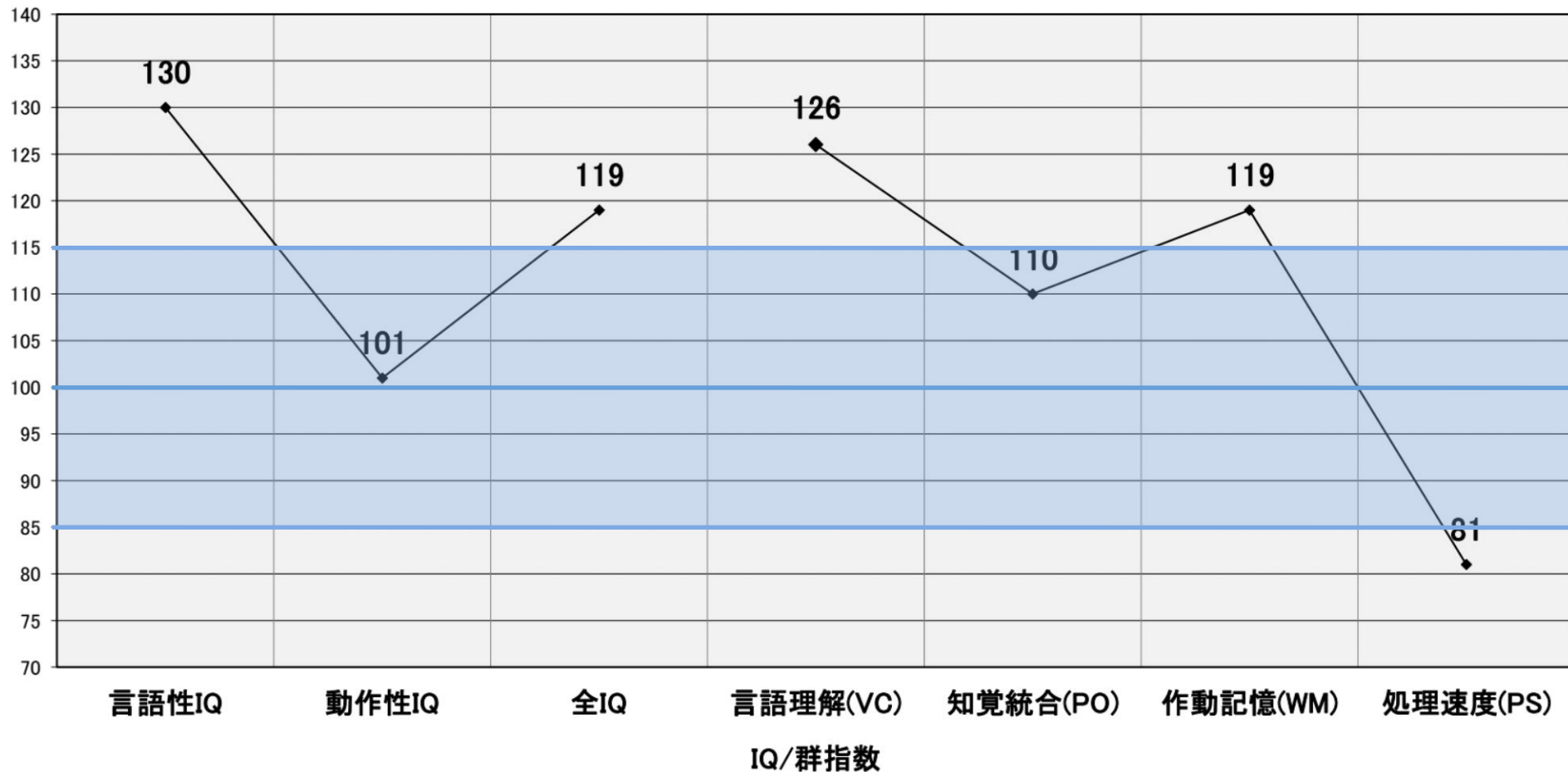
→しかし、私のように様々なことに幅広い興味を持つ当事者もあり、人それぞれである

このように、「診断名」も「背が高いこと」と同じく1人の人間を構成する特徴の一つにすぎず、実際は様々な特徴が絡み合っってその人自身を作り出している、と演者は考えている

演者の凸凹具合(WAIS-III)①

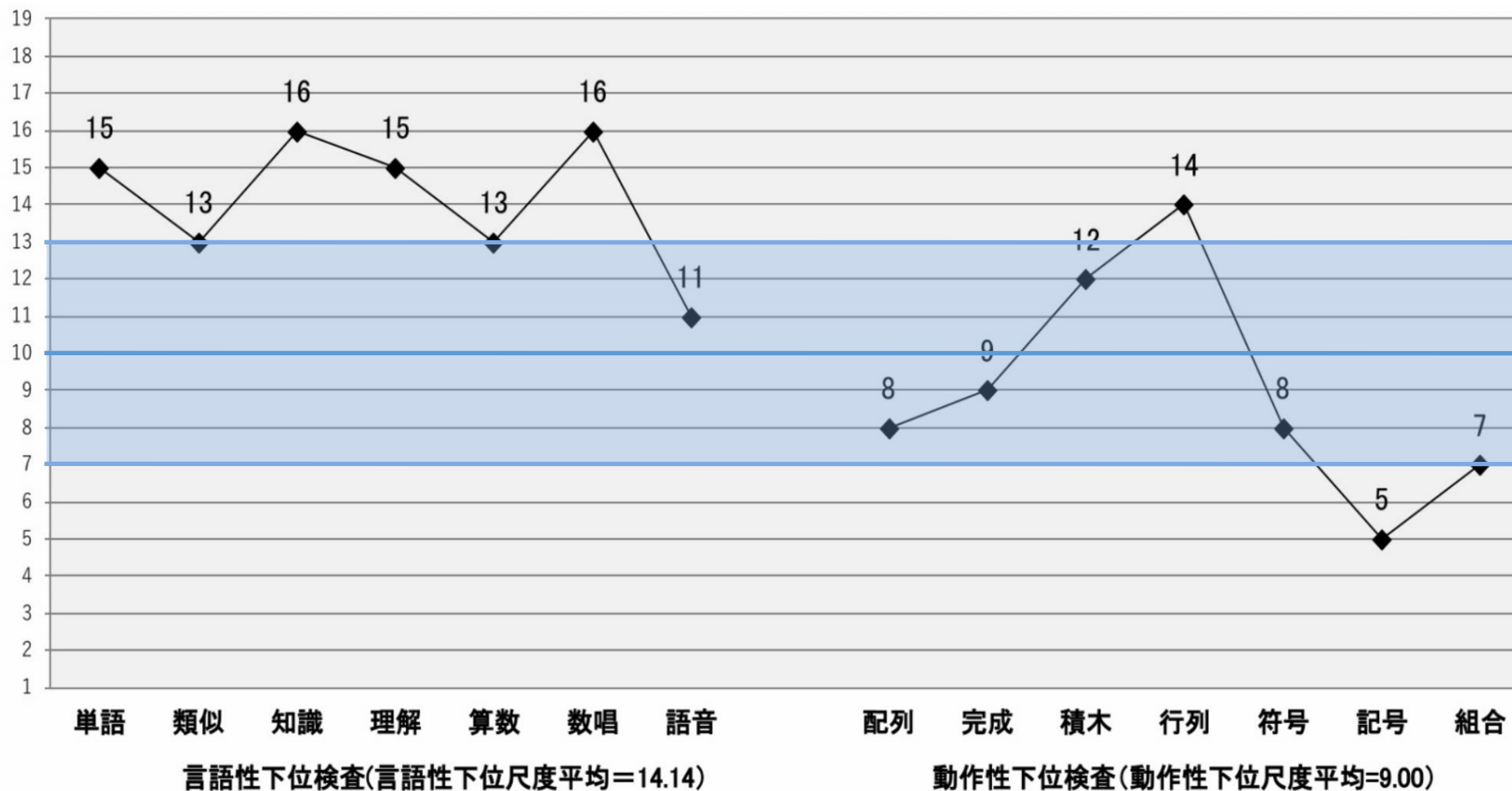
検査日：2018年5月23日

※本講演における凸凹は、凸が得意なこと、凹が苦手なことを指す



演者の凸凹具合(WAIS-III)②

検査日：2018年5月23日



演者の凸凹具合(自己分析)③

- ・言語性IQの高さが示すとおり、文章力、語学力、論理的思考など言葉を使った能力は優れている傾向（凸）
- ・処理速度の低さが示すとおり、演者は基本的に動きが遅い（凹）
 - しかし、慣れていることなどは例外
 - 他人に合わせることに著しく苦手なのはこれが一因か
- ・このように能力の差が激しいため、仕事を見つけることが簡単なことではない
 - 人々が当たり前に行えることの中で、演者ができないことがある
(かつての「非言語性LD」)

以上の特性を踏まえて

- ・演者は、言語性IQ (凸) に比べると動作性IQ (凹) が著しく低い (特に処理速度)
→それも関連し、周りの人々に合わせて行動することが極端に苦手
個人行動力を10とすると、集団行動力は1以下と言えるほどである
- ・今回の講演は個人発表、かつ言語的な内容のため困難がわかりづらい
→演者の普段の動きなどを見ると、動作性の特性がわかる
- ・それ故に、人間関係で大いに思い悩んだが、
前向きに乗り越えていった

ここで、ちよつと一息。

- ・演者は音楽鑑賞、楽器演奏、作曲、映画・ドラマ鑑賞、相撲観戦、散歩など趣味があり他にも様々な趣味がある
- BGMとして演者が作曲した楽曲が流れている

- ・そして、写真撮影も趣味の一つ
- 私が撮影した様々な風景の写真をこれからご紹介いたします！

この楽曲の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら





この写真の
詳細は
こちら



小学校までの時期①

- ・協調性がない子どもだと言われた
また、極度の人見知りで、人の名前を呼ぶことすらできなかった
- ・幼稚園や小学校では、友達を作ることができず、孤立していた
→休み時間に意味もなく校舎内を歩き回っていた
- ・小学5年生当時の担任の先生が演者の特性に理解を示し、
そのお力もあり、ASDの診断を受けるに至った

小学校までの時期②

- ・水泳と英語の2つの習い事をしていた
- ・水泳は、いつまでたっても泳げるようにならず、
未だにカナヅチ（凹）
- ・しかし、英語を習っていたおかげで、英語に慣れることができ、
英語力を活かして留学ができるようになるに至った（凸）

修学旅行でのエピソード

- ・**集団行動が苦手だったため、常に班行動の修学旅行では、班に合わせるのが大変だった**
- ・**小学校の修学旅行のホテルの大浴場で班からはぐれてしまい、泣きながらホテルで迷い、受付に場所を聞いてたどり着いたことも**
- ・**このように、一般的に楽しい行事だと思われる修学旅行も、上手に楽しめない子どももいる**

中学・高校時代①

- ・中学に入ると、より学校の居心地が悪くなり、数日間の不登校を経験
- ・高校は進学校に入学したが、雰囲気にならなえず不登校や保健室登校の末、通信制高校へ転入し、卒業
- ・その後、1年間の浪人生活を送り、地元の長崎大学に入学
→この時の孤独感から、大学生活では積極的な人間関係構築を決意

中学・高校時代②

・高校の不登校の時期に、長崎県の支援センター「しおさい」を紹介された
→ここでは、面談や検査などをした

・そこで長崎大学教授で精神科医の今村明先生を紹介された
→今村先生には、現在もお世話になっている

大学での人間関係

- ・それまでは学校で孤立し、部活動などにも所属しなかったが、大学では一念発起し、イベントやサークル活動に関わるようになった
- ・そのおかげで、多くの「知り合い」ができたが、仲を深める方法がわからず、「知り合い」のままになってしまった
- ・周りの人々が、どんどん仲良くなっていく中、自分だけ取り残されている状況であった

大学での会話

- 大学では会話に参加しようと努めたが、演者にとって、周りの会話の速度がとても速く感じられた
- 演者は、ゆっくり考えてから話す傾向にあり、考えながら話すことが難しい
- 話題についても、目的のある会話を好む傾向にあったため、ちょっとした何気ない雑談などがうまくできなかった
→ 現在はある程度改善傾向で、雑談を楽しむことができるようになってきた

飲み会での出来事

- ・大学では、食事会や飲み会などにも積極的に参加したが、
集団での会話が苦手なので、楽しめたことはほとんどなかった
- ・ある飲み会では、当時流行っていたお笑いコンビを知らず、
馬鹿にされた経験もあった
→周りの流行に合わせず、マイペースなところがある
- ・ちなみに、お酒自体は好きである
→騒がしくない飲み会であれば、かつてよりは楽しめるかもしれない

運転免許を取得するも・・・

- ・大学生の時期に、自動車の運転免許を取得する人が多く、
演者の周りの学生もその話題をしていることが多かった
- ・当時から車の運転に向いていないと自覚していたものの、
周りに流されて自動車学校に通い、運転免許を取得はできた
- ・しかし、実際に運転するとなると、他の車や歩行者に合わせることに
著しく困難を感じ、現在はペーパードライバーである
→車を運転できることは「当たり前」ではなく、
私は車をある程度運転できるようになるより新たな外国語を1つ習得するほうが簡単なくらい
能力に偏り(凸凹)がある

英語力を伸ばした

- ・英語を使う授業やサークル、国際交流イベントなどに積極的に参加し、自身の英語力を伸ばしていった
- ・授業以外でも、洋画や洋楽など、趣味でも英語に触れ、また、英語を声に出して音読することにより、英語力を向上させた
- ・当時海外未経験ながら、TOEICで890点を取れるほど、英語力を確実につけていった

people. My experiences in Venice is unforgettable because I was able to communicate with not only Italian people, but also people from countries around the world!

Asked by university to talk about my experience with autism

After coming back to Japan, I was worried about what to do in the future. I'm extremely clumsy and not good at communication, so what I can do for jobs is obviously limited. I told university about my problem, and I was asked to talk about my personal experience with autism. I accepted this offer because I don't have so many problems to talk in public such as lectures. In February, 2017, I delivered a lecture about my personal history with autism in front of more than 100 people.

Looking for what to do after graduation

I graduated from university, but I wasn't able to find jobs. I continued to deliver lectures thanks to offers of local organizations in Nagasaki such as schools and local authority. With this activity, I deeply thought about what I can do in the future. From 2018, I worked part-time for a non-profit as an accountant. They understood my personality with autism. I couldn't understand accounting well only with lessons in university, but I was able to understand accounting little by little there.

Published my first book about my history with autism



イタリア留学

- ・イタリアでも、イタリア人や日本人をはじめ、世界中の多くの学生と知り合うことができた
→しかし、仲を深める方法がよくわかっていなかったため、うまく仲良くなることができなかった
- ・イタリア語やイタリアの文化を肌で感じることができ、比較することで日本にずっといるとわからなかった日本の良さも知ることができた
- ・また、様々な国の人と関わることにより、多様な考えを知ることができ、より柔軟になることができた

帰国後、進路を思い悩む

- ・イタリア留学から帰国した時、大学4年生であり、
将来の進路をどうすれば良いか考えなければならなかった
- ・自らの特性を考えると、できる仕事は限られており、大いに思い悩んだ
- ・そのことをお世話になっている長崎大学の今村先生に相談すると、
大学で学生支援をしている方を紹介された

自身の体験を講演

- ・学生支援をしている方と相談していると、
ASD当事者としての自身の体験を講演してはどうかと提案された
- ・自身が講演者に選ばれるとは思わなかったが、
これを引き受け、2017年2月に、
『凸凹大学生活から考える自閉スペクトラム症』の題目のもと、長崎大学で講演した
- ・これをきっかけに、講演活動を開始した

大学卒業後

- ・2017年3月の大学卒業後、定職に就くことはできなかったが、活動を開始し、学校や事業所、地方自治体などで講演した
→2019年には本を出版した
- ・その間、ご縁があり長崎市のNPO法人にて非常勤職員として経理の業務をした
→おかげで経理を学べて、日商簿記2級を取得した
- ・しかし、定職に就けているわけではないので自らの進路について引き続き思い悩んだ

プログラミングを学ぶことを決意

- ・2020年、将来への道を模索するためにNPO法人を退職し、
演者は子どもの頃からパソコンを操作することが好きなので、
パソコンを使ったプログラミングを仕事にすることを決意した
→ホームページやスマートフォン用アプリの開発を学んだ
- ・プログラミングとは相性が良く、意欲的に学習を進めることができた

検査の種類をお選びください

ASD
(幼児,児童期)

ASD
(成人期)

ADHD
(幼児,児童期)

ADHD
(成人期)

LD・DCD
(幼児,児童期)

LD・DCD
(成人期)

戻る

こちらでは、成人期のASD(自閉スペクトラム症)の特徴について検査いたします。

- ・社会性
- ・コミュニケーション
- ・想像力
- ・感覚の問題

以上の4つの項目の特徴について各問5段階でお答えください。

(社会性)

問1: 他者に対して情緒的な交流がうまくできない

- 強く当てはまる

問24: 自分の身体感覚がつかみにくいため、体調不良が起こりやすい

- 強く当てはまる
- 当てはまる
- どちらとも言えない
- 当てはまらない
- 全く当てはまらない

結果を見る

社会性: 6/7

コミュニケーション: 4/7

想像力: 3/6

感覚の問題: 3/4

リセット



詳細はこちら



無理がたたり、体調を崩す

- ・プログラミングの学習自体は楽しく、早く仕事にできたらと、休憩することを意識せずにひたすら取り組んだ
- ・その中で、世間はコロナ禍となり、不要不急の外出自粛が求められた
→それもあり、ほぼ外出せずに家に引きこもることになった
- ・不健康な生活がたたり、精神的に体調を崩すことになってしまった
→不必要な不安がひたすら頭に浮かび、日常生活に支障をきたした
→体調が良くなり、悪くなり、の繰り返しを経験

現在心がけていること

- ・現在は体調は安定傾向にあるものの、引き続き無理をせずに、頑張りすぎずに十分な休養時間も確保することに務めている
→体調不良を経験し、身をもって息抜きの重要性を痛感した
- ・生きることに一生懸命になりすぎると焦ってしまうので、ゆったりと生きることを大切にする
- ・この社会には様々なリラックス方法が溢れている
→どれが自分に合うのかは、人それぞれなので見つけるしかない
→演者は例えば、散歩をしてきれいな風景を写真に撮ってブログに上げるのが習慣の1つ

演者がこれからやりたいこと

- ・演者の特性にある程度理解のある人とであれば、
演者は優れた能力(凸)を発揮し、大きな成果を出すことができると約束する
- ・例えば、語学力(凸)を活かした英語講師や、
プログラミング能力(凸)を活かしたIT業界やプログラミング講師、
文章を書く力(凸)を活かした仕事などであれば、大きな成果を出すことができる可能性が高い
- ・演者は起業に興味があり、日商簿記2級を取得しており裏方の会計事務なども少しはできる
演者ととも、「社会をより良く」できる仲間を探している
(お気軽に趣味の仲間も歓迎！)

こちらからお気軽にご連絡を！



長崎いのちの電話について

- ・悩みを抱えている人々の中には、その悩みを相談しようと思っても相手がいない場合がある
→そういう人々にとっての相談窓口が存在することはありがたい
- ・しかし、相談を受けた方が良かれと思って話したことが相談をする方を傷つける恐れがある
→これは本当に難しい問題 どれだけ相手の立場になれるかが重要かもしれない
→相談をする方は、「いろいろな人」がいるので、いろいろなタイプの人を知ることが有効？
- ・演者は書くことは得意だが、(凸)話すことは苦手(凹)である
→そのようなタイプの人々は電話での相談が難しい場合がある
→LINEなどで文字での相談を受け付けるとより多くの人々に対応できるかもしれない

当事者たちと どのように関わるか

・顕著な**凸凹**を抱える当事者たちは、できて当たり前とみなされていることが 困難であることがあり、生きづらさを抱えている

・当事者自身、職場の同僚、支援者、保護者、当事者同士の 5つの視点から考える

※これは演者自身の個人的意見であり、必ずしも正しいとは限らない

→考えるきっかけを提供

①当事者自身

・自分がどういう人間か、自己分析を試みる

→凹の部分で落ち込むこともあるが、凸の部分で自信につなげる

・周りが「普通に」できることが、すべての人にできるとは限らない

→「普通」とは誰かの主観ありきで、客観的な「普通」という概念は存在しない

・できる範囲のことはなるべく自分で行い、無理な部分の支援を求める姿勢

→傲慢な態度で支援を求めることは、望ましくない

(法改正で令和6年4月から事業者による「合理的配慮の提供」の義務化とはいえ)

② 職場の同僚

- ・当事者が上手に仕事ができない時には、苦手な作業でないか考える
- ・得意・苦手が極端なため、得意な作業を考え、それを優先させる
- ・曖昧な指示を苦手とする当事者には、正確な作業範囲を伝える
- ・飲み会等の参加が厳しい当事者がいるため、作業時間外の人間関係を考える
- ・いくら得意な作業であっても、法的な範囲内での労働条件を守る

③ 支援者

- ・診断名は、当事者の特性を判断する材料にすぎない
→それぞれの特性は千差万別なので、この診断名だからこの支援、と単純ではない

- ・凹を平均的に持っていきより、凸をどんどん伸ばす支援が望ましい
→前者は、後者よりもはるかに難しい

- ・なんでもまんべんなくこなせるジェネラリストも素晴らしい人々であるが、
凸凹が激しい当事者は、得意なことに特化したスペシャリストが向いている傾向

④保護者

- ・ASDの特徴は生まれつきであり、育て方によるものではない
→自分の育て方が悪かったのでは、と責める必要は全くない

- ・演者は、母の理解があったからこそ、今の自分がある（父にも感謝）
→子どものありのままを受け入れ、応援する姿勢が大切
→他の子どもとむやみに比較をせず、子どもの個性を尊重する姿勢

- ・子どもの凹の部分ばかりに注目せず、凸の部分を見出すと、
才能が開花し、素晴らしい成長を遂げるかもしれない

⑤当事者同士

- ・当事者同士であっても、**凸凹**具合が十人十色で、理解が難しい
- ・「ASD」、「ADHD」、「SLD」などの分類があるが、
例えばASD当事者の中でもその特性は人それぞれ異なってくるものである
- ・すべての人々がそれぞれの異なる性格や特性を持つことは、当事者同士でも変わらない
- ・当事者同士でも、お互いの特性を理解し、嫉妬をせず謙虚な姿勢が求められる

まとめ①

- ・演者はある分野では高い能力（凸）を持つ一方、別の分野は著しく苦手（凹）であり、「仕事をする」という面で大きな困難を抱え思い悩んだ
- ・演者に似たタイプの人々の中には、能力があるにもかかわらずひきこもりの人々や、思い悩んだ末に非常に残念なことに自ら命を絶った人々もいる
- ・演者のように能力の得意と苦手（凸凹）が極端な人々もいる、と社会に幅広くご理解いただき、そういった人々が能力を思いっきり発揮でき、社会をより良くできることを願う

まとめ②

- ・今回は、演者が実際に体験したことを例に、
自閉スペクトラム症(ASD)や発達性協調運動症(DCD)の当事者が
どのような困難を抱え、それを自分なりに乗り越えたかを考察した
- ・演者はほんの一例であり、この世界には様々な個性を持った人々が
共存しており、その個性がある程度受け入れられると、
この社会をより良いものにできる可能性を秘めている人もいる
- ・それぞれの個性、違いを尊重できる社会になることを願う

ご清聴ありがとうございました

ご意見・ご感想・ご質問等はこちらにお願いします
私と一緒に仕事をしたい方からのご連絡も大歓迎です！

<https://www.ryuichiyamada.com/>
もしくは、下記のQRコードをお読み取りください

